

2017年5月 話題広告賞

信頼される安心を、社会へ。
SECOM

「はい、でも
まだまだ未熟。
もっと前のめりに
頑張ります」

セコム上信越株式会社
代表取締役会長
野沢 慎吾

「そうか50年かあ、
あの時の坊やが
いまや会長かあ」

セコム株式会社
取締役最高顧問
飯田 亮

セコム創業者、飯田亮。セコム上信越会長、野沢慎吾。ふたり
が初めて出逢ったのは、慎吾の父、取・野沢隆五を介して。
慎吾少年、まだ小学5年生の頃。
.....
空気が水と安全は夕日が当り前の当時で、安全を新しい
産業として確立させようという気風を社に帯びた。飯田亮。
ある日、隆五は、飯田が設立した警備会社の存在を知る。
これしかない、そう思うや否や、すぐさま飯田本人に会うため
単身上京。そこで想いの丈をつづけた。警備の仕事がやり
たい。その熱意を飯田は受けとめた。そして彼もまた、無く
己の理念を語るものだった。
.....

新島に昇った隆五は、警備業をまさにゼロから出発させる。
まず「警備」の意味をいから説明しなければならない特代で、
日々苦勞も多かったが、子供ながらに慎吾は、その先進的な
仕事に憧れを抱いていた。35才で医者をやめ、父のセコム
上信越に入ること何の躊躇いもなかった。むしろ夢であった。
.....

「セコムに入ります」初めて飯田のところへ挨拶にいった。
「いい靴を買え」と安直言われた。「そのいい靴がすり減る
くらいまで外回りするんだ」と。学生だった頃、慎吾は飯田を
東京のおじさんとして慕っていた。連絡して都合さえつれば、
普通に会っていた。逆に、社人になって近づきにくい
存在になった感がある。父の跡を辿って、同じ組織に入った

とたん、その偉大さに圧倒されたからだ。怒鳴られたことも
あった。今にして思えば、こんな有り難いことはない。
.....

2005年、父・隆五が歿した。44歳で社長に就任。気負いも
あった。油断もあった。失敗もした。そのなかで気づいた。
組織を率いる長として、社員とその家族を守れないで、どう
してお客さまを守り、社会に役立つことができるのか。
.....

2017年5月25日、創立50周年。野沢慎吾は、飯田とのツー
ショットを送いなくお願した。「東京の親父」は快諾。「新潟
の息子」は今も特別だ。もしや飯田の目には、50年前の最初
の訪問、父・隆五の面影を慎吾に重ねていたのかもしれない。

地域のみならず、日頃のご愛顧ありがとうございます。おかげさまで、セコム上信越は創立50周年を迎えます。 **セコム上信越株式会社**

2017年5月25日付 15段
セコム上信越株式会社 [扱い・制作 電通]